

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401400		
法人名	株式会社 日進開発		
事業所名	グループホーム「くにみの里」		
所在地	長崎県雲仙市国見町多比良戊1449-416		
自己評価作成日	平成 27 年 11 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 2 月 23 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 27 年 12 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護事業の理念として、「健康管理の徹底」「楽しい食事」「優しい声かけ」「快適な施設」を掲げ、それに沿った日常生活を提供できるように努めている。入居者のみなさんには、生活全てを支えられるのではなく、職員と共に行う家事を通して役割を持っていただくなど、できることは積極的に参加を促している。今年度は初めての試みとして、全棟の入居者と職員が共同で野菜作りを行い、車いすの方でも畑のそばまで行き収穫した野菜に触れるなど、何かの形で畑に関することへと参加して頂いた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に同法人の他ホームとデイサービスが隣接する当ホームは、近くの公園で季節の花を見ながら外食やおやつを楽しんでいる。入居者に農業経験者が多い事もあり、今年から畑で野菜を作りを行った。入居者の得意分野を活かし教えてもらいながら、職員と入居者が共に苗を植え、野菜を育て、収穫する喜び、それを食べる楽しみに繋げている。職員は介護の専門性を高めるために定期的に内部研修を行い、その時期の課題に応じた内容を検討し、職員間で知識を共有することで入居者の安心に繋げている。今年度は理念を実践に繋げるために接遇や内服についての研修を行い認知症の理解を深める取組を実施した。職員が入居者の尊厳や思いを大事にする支援によって、入居者が他入居者にも気を配り職員と共に協力し助け合いながら生活している様子が窺えた。職員は入居者のできる事を奪わないような支援に配慮し、職員同士注意しながら情報を共有し改善に取組む様子が窺え、今後も更に期待が持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 くにみの里A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を理解し、理念に基づいたサービス提供ができていないか、日々考えながら職員全員で介護に取り組んでいる。	毎朝理念を唱和し、やさしい声掛けに配慮し常に「～です」「～ます」の気持ちで接するよう努めている。月1回の主任会議では各棟が一緒に揃ってする事等ホームでどうしようか話し合いながら、穏やかな生活を送ってもらえるよう全職員が団結してサービスの提供に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加できるようご家族と連携し参加できる体制を作っている。地域の保育園・小学校・中学校との交流の機会を作っている。	保育園の慰問・小学校の福祉体験・中学校の職場体験を受入れ、交流を通じて認知症について知る機会へ繋げ、体験した子どもからは「こういうふうに接しよう」と体験が活かせるような感想もある。近所の方も入居者に気掛け、過去離設があった時には連絡をもらえる等日頃から協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校で行われる職場体験、福祉体験学習について、生徒の受け入れを行い、認知症について知る機会を持つ場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退所、開催行事、サービスの取り組みについて報告し、意見をもらっている。写真を使って雰囲気わかる工夫をしている。介護や健康についての勉強会を共に行いサービス向上に活かしている。	行政・民生委員・入居者・家族が参加し、時季に応じて熱中症や感染症予防等の助言や状況報告を行っている。スライドを使って行事報告等を行う事で、言葉では通じにくい表情や様子を伝え、家族からの感想や意見を引き出すよう取り組んでいる。今後は民生委員の協力から自治会へ情報発信等繋げてもらえるよう検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、事業所の現状を伝え、運営に関する事の質問等、積極的に行うことで、事業所と良い連携が取れる関係を作っている。	地域で支えましようとの思いを基に、町の福祉施設や地域の方と、包括主催の「国見ケア会議」に参加し情報を共有しながら日々の支援に活かすよう努めている。今後は更にこの会議を活かしたホームの情報発信をお願いしたい。また、有事の際に備え、ハザードマップの確認と協力体制の構築を市町村へ仰ぎたい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての正しい理解やケアの仕方等、身体拘束0委員会を設置し、事業所全体で取り組んでいる。身体拘束廃止推進委員養成研修に参加している。	外部や法人の研修会へ参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特に身体拘束0委員会を設置した事で言葉による行動抑止に繋がる声掛けの統計を取り、職員同士で注意し振り返る事で職員の意識と入居者主体の声掛けへの改善に取り組んだ。入居者の状態に応じ、目的を説明し家族の同意を得ながらセンサーマットやセンサーライトを工夫しながら使い入居者の安全に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけではなく、言葉による虐待も見過ごされることの無いよう、職員によりお互いが注意し合うようにしている。法人の研修会へ参加し学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての資料を用意し、いつでも見ることができるようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約について十分な理解が得られるようわかりやすく説明し、安心して利用していただけるようにしている。改定時にも文書を作成し配布と説明を行い、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置しており意見要望には素早く対応し、ケアの向上に取り組んでいる。	気軽に何でも言える関係作りの為、家族とコミュニケーションを取るよう努めている。リハビリに通わせて欲しいとの希望が多く、散歩や家事の手伝い等、日常生活が訓練になるよう取り組んでいる。また、通算3回目となる試食会を実施し家族の安心へ繋げるよう取り組んでいる。	ホームで取り組んでいる事を(日常生活が訓練となっている事等)具体的に伝える事で、家族の要望と職員が支援する内容の認識を共有できるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議にて職員の意見や提案を報告している。挙げた意見等は施設長が法人の会議で提案することで反映の機会を得ようとしている。	管理者は職員の相談に応じながら、一人ひとりが役割・責任感を持ち自信に繋がるよう配慮している。専門用語を使わない事で職員もためらいなく意見を出し合い、介護方法についても口頭伝達のみでなく、実践を通じて共有するよう努めている。食事会の前には盛り付けや食器選び等詳細を全職員で話し合いながら取組んだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職場環境や条件の整備に努め、給与の見直し等がなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を常に提示し職員一人ひとりに研修に行くように勧めている。また、資格所得の為の協力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の全ての施設が参加できる会議「国見ケア会議」へ出席し情報交換をし、ケア向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込みの際は必ず施設見学をお願いしている。利用前には、必ず自宅訪問を行い、入居者より生活状況や困っている事や不安な事を聞き取り、安心して利用できる体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には入居者だけではなく必ずご家族との面談も行い、これまでの苦労や困っている事・不安な事、また、今までのサービスの利用状況等聞き取りを行い、共に入居者を支えられる信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者やご家族より状況を聞き取り支援の提案・相談をし、必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意見や尊厳を尊重しながら職員が生活支援すると共に、入居者自身も家事などに参加し、それに職員が支援できる環境を作るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を面会時や電話にて報告、相談すると共に、月に一度発行の里だよりにも状況を記載し、ご家族に今どういう状態か分かるようにしている。また、面会に来て頂けるようご家族への声掛けや、受診など職員と一緒に同行して頂いたりして、ご家族と共に入居者を支える支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの店や散髪屋などへ行けるよう支援しており、知人や友人との交流も支援している。	隣接のデイサービスを利用する友人との行き来がある。小学校の運動会へ参加し家族やその知人と交流できるよう取組んでいる。農業に従事していた方が多い事もあり、今年から畑で野菜を作っている。入居者の得意分野を活かしながら馴染みの店へ苗を買いに行ったり、入居者に指導してもらいながら作物を作り、収穫する楽しみを共有しながら、入居前の関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りを提供し、入居者同士の関係がうまく行くよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退所された方も見舞いに行ったりすることで、退院後の受け入れ等の相談や他サービスの検討をしたりするなど支援をできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者より日々の交わり合いの中で情報収集したり、ご家族からも情報収集し、入居者やご家族の思いや意向の把握に努めている。	身体拘束0委員会への取組から、行動を先回りして「待って」の前に「どうしたい?」と声掛けが変わり、入居者の思いや意向を把握するよう取組んでいる。引きこもりがちな入居者には、常日頃からさりげない誘いの声掛けを行っている。その成果として、本人の思いとタイミングが合い、リビングに出てきて過ごすようになった方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者やご家族から些細な事でも聞き取りの中から感じ取り、日々情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できない事よりできる事に注目し日々の生活リズムや心身状態を全員が周知できるように記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者やご家族の思いや、必要に応じ医師や看護師の意見を取り入れ、本人の現状に合う計画になるよう反映させ作成している。	入居者・家族の望む事、支援したい事、できる事を少しでものばせるようにそれぞれの意見を反映させた介護計画書を管理者が作成している。担当職員が日常の中で気付いた事を、やってみようを取り入れ、専門用語を使わず、入居者・家族・職員に伝わるように、「訓練」ではなく入居者が楽しめるように計画書に記載し、日々の支援に反映するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に介護計画を反映させ、実施状況や気づきを記録し入居者の状態が一目でわかるように工夫し、職員間で情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者とご家族の状況に応じ、必要な支援は迅速に対応している。入居者・ご家族が満足して頂けるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店や美容室など親しみの店に行ったり、施設の買い物に同行してもらうなど共に生活しているものとしての生きがいを失わない支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医院での医療を受けられるようご家族と協力し通院介助を行っている。	週1回訪問看護師に入居者の状態を相談しながら、受診先や受診の相談・助言を受けている。病院への受診は職員が対応しており、定期受診以外の時は家族に同行してもらう事もある。受診の時には受診ノート・生活記録を持参し医師と職員が情報を共有できるよう取り組んでいる。医師と相談しながら認知症の服薬量を減らし、状態が改善された事例がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回の看護師訪問にて状態の報告相談をしている。特変時にはすぐに連絡相談をし、対応の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師・看護師と情報交換しながら、可能な限り早期に退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者やご家族の意向をふまえ、医師・職員が連携をとり、安心して納得した終末期が迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	入居者の状態に応じ、家族の意向を確認しながら医師と連携した体制構築に努めている。来年2月に「看取りとは何だろう・・・」と看護師からの話を交えて、今後の看取りへの体制の構築に向け研修を行い知識を深める予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全社員を対象に年に一回救急救命講習を開くようにしている。AEDの使い方についても指導を受けるようしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	運営推進会議において、消防署職員より地域の状況の説明を受けたり、地域の方より昔の災害の状況を伺った。事業所全体で消防訓練を行うことで、職員全員が避難誘導等を実行できるようになるようしている。	年2回の避難訓練に職員・入居者が共に参加し有事に備えるよう努めている。前回受審後、非常食と非常持ち出し品の改善に取組準備をした。また、消防署より地域状況について過去に近くの川が氾濫した事も含め、現在法人で災害対策の計画書を作成中である。	有事に備え避難訓練以外でも消防団との協力関係を更に深められるような取組を期待したい。また、備蓄品一覧表を作成し、管理・整備しやすいよう、全職員が周知できるよう取組む事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の気持ちを大切に、さりげないケアであるように心がけ、言葉を選び、言葉かけには十分配慮している。	接遇の研修や職員同士注意する事で、入居者個々に合わせた言葉で声掛けし尊重するよう努めている。入居者のできる事を奪わないよう、入居者に合わせて不必要に物を使用しない(介護用エプロン等)ようにし尊厳を損なわないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者がゆっくり話せる雰囲気を作り、話しやすい環境を作るよう努めている。物事を決める時も、本人が決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に注意しながら、その日その時の入居者の気持ちを尊重し、どのように過ごすかを話し合いながら、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が以前着ていた洋服など、毎日本人が選んで着ている。馴染みの床屋に行かれるか、二カ月に一度の訪問理容を選ばれたりしている。ご家族に散髪を頼まれる時も電話等行い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使うよう心掛けている。食材の下ごしらえにも積極的に参加してもらい、片づけも食器洗いやテーブル拭きの役割分担をしている。	収穫した野菜や差し入れて頂いた食材を活かしながら、入居者の状態に応じた食事形態で提供している。入居者は積極的にお茶くみや茶碗洗い・お盆拭き等の手伝いをし、職員・入居者が共に気配りをしながら食事を楽しんでいる様子が窺えた。また、外食や季節に応じて梅干しを漬けたり、さつまい芋を収穫し焼き芋をする等食事を楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食べやすい形態の工夫をして提供している。また食事・水分チェック表を活用しながら一人ひとりの状態を把握し確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には食後の口腔ケアの言葉かけを行い、できない方には準備や介助をしたりと入居者にあつたケアをしている。歯科の往診も利用しケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄リズムをある程度把握し、尿意の無い入居者にも時間を見計らって誘導しトイレでの排泄につながるようにしている。	自尊心を傷つけないよう、丁寧な言葉かけでトイレでの排泄へ誘導し、排泄の失敗で自信を失わないよう定期的な誘導がなされている。座位を保持する事で自然排便に繋げ、入居者の羞恥心や第三者の目にも配慮し、ドアの外や近くで見守りながら支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動やレクリエーションに体操を入れている。食事野菜中心の食事にし、必要な水分量を確保する等している。また、薬による排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴を行っている。入居者の体調や気分に合わせて入浴を実施している。午前、午後と入浴を行う事ができる。	入浴は入居者の体調・要望に応じた湯加減で支援し、できる事は本人にしてもらい、時季に応じて足浴しながらシャワーをする事で体を温められるよう配慮しながら支援に努めている。介護の専門性を活かし介護方法を見直した事で不必要と思える福祉用具の使用を止め、浴室空間を広げると共に重度化した入居者も安心して一般浴槽で入浴できるよう取組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中も活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。不安などで眠れない時には話し相手をしゆっくり眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を保管し全職員がわかるようにしている。誤薬が無いように、職員が何度も確認し、その人に合った服薬の仕方も工夫している。薬の処方変更になった時は、様子観察を行い、主治医と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や地域の行事参加等楽しみ事を、入居者やご家族と相談しながら行っている。その方の好きなことやできることを見つけて、一緒に行うようにし、自分から望むやりたいことは支援するよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事などで外出をしたり、ご家族の協力も得て自宅へ帰られたり入居者の希望にそった支援をしている。	日常的に敷地内を自由に散歩しながら歩行練習している方もおり、職員は入居者の自主性を尊重するために声を掛けながら見守るよう取組んでいる。花見をしながら外食したり、共に買い物へ出かける等希望に沿うよう努めている。近くのまんじゅう屋へ車椅子を押しながら出掛けた事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の下、少額の管理を支援し、ホームの買い物に同行していただいたり、受診の帰り道でスーパーに寄ったりするなどの自身でお金を使う機会を持つようしている。できない方については、事務所で管理し、買い物を代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時にはいつでもかけられるよう支援をしている。また、聴力の弱い方の為に、代って通話をすることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間は一体的な造りで全てが視界に入り落ち着いてくつろげる。季節感のある掲示物をしたり、居間から見える庭には季節の花を植えている。	暖色系で揃えられた家具はホーム全体を温かい印象と安心や安らぎを感じさせる空間となっている。入居者の動線の妨げにならないような家具の配置となっており、時間や場所の見当識に対応できるよう季節感を取り入れた装飾や入居者の視点に合わせたトイレの表記で混乱や不安を取り除く工夫が窺われた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは自分の好きな所に座られたり、仲の良い入居者同士で食堂のテーブルで話される等、自由に過ごすことができる支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していたものを持ち込まれ、住む場所は変わっても戸惑うことが少ないよう入居者の個性に合わせる配慮をしている。	使い慣れた筆筒や椅子等を持ち込み、温かみのある家具で入居者が居心地良く過ごせるよう配慮している。慣れ親しんだ家具を入居後も継続して使用することで入居前の趣味活動や生活パターンに近付け、その方らしい生活の実現に向け働きかけを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方それぞれが、その人だけがわかる目印を利用し居室の間違いを無くしたり、トイレなど大きな文字の案内でわかりやすいよう対応している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 くにみの里B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりが事業所の理念を理解し、その理念に基づいたサービス提供が出来ているか、日々考えながら職員全員で介護に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加できるようご家族と連携し参加できる体制を作っている。地域の保育園、小学校、中学校との交流の機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校で行われる職場体験、福祉体験学習について、生徒の受け入れを行い、認知症について知る機会を持つ場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退所、開催行事、サービスの取り組みについて報告し、意見をもらっている。写真を使って雰囲気がわかる工夫をしている。介護や健康についての勉強会を共に行いサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、事業所の現状を伝え、運営に関するご質問等、積極的に行うことで、事業所と良い連携が取れる関係を作っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての正しい理解やケアの仕方等、身体拘束0委員会を設置し、事業所全体で取り組んでいる。身体拘束廃止推進委員養成研修に参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけではなく、言葉による虐待も見過ごされることの無いよう、職員によりお互いが注意し合うようにしている。法人の研修会へ参加し学ぶ機会を設けている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての資料を用意し、いつでも見ることができるようにしている。以前権利擁護事業を利用されている方が入居されていたことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約について十分な理解が得られるようわかりやすく説明し、安心して利用していただけるようにしている。改定時にも文書を作成し配布と説明を行い、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加を促し、意見や要望を引き出す機会を作っている。面会の際は、日々の生活状況を伝える事で、ご家族と良好な関係を築き、会話の中から意見や要望が引き出せるように努めている。意見箱の設置も行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議にて職員の意見や提案を報告している。挙がった意見等は施設長が法人の会議で提案することで反映の機会を得るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職場環境や条件の整備に努め、給与の見直し等がなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常に法人内での研修の機会を作り参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会として「国見ケア会議」が開催されており、それに参加することで、他事業所と交流を持つ機会にしている。法人外の研修会への参加も促し、他事業所と交流する機会を作っている。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込みの際は必ず施設見学をお願いしている。利用前には、必ず自宅訪問を行い、入居者より、生活状況や困っている事や不安な事を聞き取り、安心して利用できる体制を整えている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には入居者だけではなく必ずご家族との面談も行い、これまでの苦労や困っている事・不安な事、また、今までのサービスの利用状況等聞き取りを行い、共に入居者を支えられる信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者やご家族より状況を聞き取り支援についての提案・相談を行い、必要なサービスに繋げるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意思や尊厳を尊重しながら、できることを活かし、生活の中で役割を持つことができ、できることを増やせるよう接している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を面会時には必ず報告し、体調の変化などは随時電話で報告している。月に一度の里だよりに近況を記載し、ご家族に生活状況が分かるよう努めている。ご家族による外出・外泊を勧めるなどしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段の買い物の場であったと思われる商店やスーパーマーケットに行き一緒に買い物をしたり、行きつけの美容室に行ったりできるようにしている。デイサービス利用中の友人への面会もできるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にひきこもりにならないよう楽しく過ごすためにレクリエーションを活用したり、食材の下ごしらえを一緒に行うなど、入居者同士の関係が上手くいくよう配慮し支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退所された方も見舞いに行ったりすることで、退院後の受け入れ等の相談や他サービスの検討をしたりするなど支援できるようにしている。	

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者より日々の関わり合いの中で情報収集したり、ご家族からも情報収集し思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取りや、利用されていた事業所に情報提供を依頼するなど、本人の状況を知ることができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に生活状況や身体状態を記入し、一日の生活が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで入居者・ご家族の希望や課題について話し合い、必要に応じて看護師や主治医の意見を聞きながら介護計画を作成し、入居者・ご家族へ説明・提案を行い、現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	提供するサービスについて、個別に記録する中に実践状況が分かるよう記載している。プランに沿って入居者が生活できているか職員が把握・共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員それぞれが、入居者とご家族の希望に沿うようできるにはどうしたらいいかを考え、満足につながるサービスになるよう取り組んでいる。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員やご家族に頼るのみだけではなく、買い物なら実際にスーパーに同行し買い物をしたり、外食を企画するなどし、事業所内だけではなく外に出る機会も持つようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者自身がかかりつけにしている医療機関にそのままかかり続けることができるようにしている。その医療機関と良好な関係づくりに努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の週1回の訪問時に入居者の状態を報告している。状態の急変や事故発生時には、随時連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入居者の生活状況を伝え、職員の面会を行う事で入院の不安等を軽減できるように努めている。面会の際は、看護師に日々の医療の経過を聞きながら、早期退院に向けて支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化した場合や看取りの指針の説明を行う。生活状況の変化に基づき、必要な医療・介護サービスが受けられるように支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全社員を対象に年に一回救急救命講習を開くようにしている。AEDの使い方についても指導を受けるようしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	運営推進会議において、消防署職員より地域の状況の説明を受けたり、地域の方より昔の災害の状況を伺った。事業所全体で消防訓練を行うことで、職員全員が避難誘導等を実行できるようになるようしている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや態度に気を配り、一人ひとりの尊厳を守るよう努めている。現在、特に言葉遣いについては気をつけるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者にわかっていたかための話し方を心がけ、落ち着いて気持ちを表してもらえよう接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に注意しながら、その日その時の入居者の気持ちを尊重しつつ、職員の都合に合わせないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は、着たい服をご自身に選んでいただいている。行きつけの美容室を利用することも本人とご家族ともに勧めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使うよう心掛けています。食材の下ごしらえにも積極的に参加してもらい、片づけも食器洗いやテーブル拭きの役割分担をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に量の調節を行い提供している。水分については、お茶やスポーツドリンク等に限らず、ジュースなど好きなもので水分が摂れるよう支援している。嚥下の状態に応じてトロミ剤の使用やミキサー食の導入もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の手入れや歯磨きは、ご自身できるところまでしていただき、できない部分を介助にて衛生を保つようにしている。歯科の往診による口腔衛生について指導を受ける体制も作っている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつを使っている方でも、できるだけトイレでの排泄を促している。排泄チェックを行うことで、それぞれに合ったトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な水分摂取量が摂れるよう水分補給に努めている。医師の指示で摂取に制限がある方の量の調整も行っている。レクリエーションには体操を取り入れている。必要に応じ、医師の指導にて薬の使用も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調に配慮しつつ、自力での洗身洗髪を促し、職員主導のペースでの入浴にならないように心がけている。午前・午後、曜日もできるだけ決めないようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜はその方の望む時刻に就寝して頂いている。室温についても、一定温ではなく、その方に合った室温を心がけ、乾燥にも注意を払っている。入居者の体調を考え、昼寝をしていただく方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医より頂いた薬の説明書を保管し全職員がわかるようにしている。薬の変更があった際は、医師の指示の下状態観察を行い、医療機関との連携をとるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やりをしたり、入居者の好きなことやできることを見つけ一緒に行うようにしている。自発的にやりたいと思っておられることを妨げない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	リハビリの一環として、敷地内での歩行練習に自由に出来るようにしている。外出外泊等も、ご家族と相談し、希望に沿えるよう話し合っている。		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者とご家族との話し合いの下、入居者に少額の金銭管理をしていただき、ご自身で買い物等して頂いている。できない方は事務所にて金銭を管理させていただき、買い物代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望により電話の取次ぎを行っている。耳の遠い方には、代わって対応をしている。葉書の購入をし、手紙を書きたいという希望も叶えるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の色は電球色で、温かみのある雰囲気になっている。壁には季節を感じることができる手作りのカレンダーや、折り紙を貼っている。音楽は演歌や昭和の歌謡曲を流し、ゆったりと過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者自身が、自分の座る位置を決めていて、それぞれ自由に会話を楽しんだり、一人になりたい時も隣接する食堂に移動する等できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋のレイアウトはご自身の好みに合わせている。自分でできない方は、清潔感があるようにしている。自身で選ばれた家具や趣味の物も可能な限り持ち込んでいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同トイレは分かり易い大きな文字で示したり、それぞれの居室が分からない方にも、目印になるものを置く等している。居室内でも表示するようにもしている。		